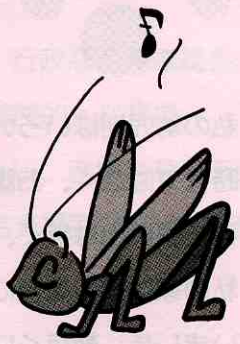
と思い至って、刈り取った草をそれぞれの木の根っこに積み上げておくようにしました。２年目には木の回りに腐葉土が少しもりあがるようになりました。春になると若葉に勢いが感じられるようになりました。油かすも買ってきました。そして５年目にやっと３個のキンカンの実がなりました。６年目の今年は20個ほどの実が収穫できました。

一時は買った苗が悪かったのかと、抜いて新しい苗木を植え直そうかと思っていました。

私の世話の仕方に問題があるのかもと気がついたきっかけは、学校の物理で習った「エネルギー不滅の法則」を思い出したことでした。我が家の庭のエネルギーが、キンカンの実がなるには不足していること、自然のエネルギーが草を捨てることで引き算になっていると気がついたことでした。学校での勉強も思いがけないときに役に立つものです。

子どもの治療や子育て援助にも同じ側面があるようです。お節介になってはいけないし、援助するタイミングを逸すると子どもの可能性の芽を摘んでしまうことになります。必要とされるお世話がタイミング良く出来たらといつも思っています。お世話してもなかなかうまくいかないことがあります。そういうとき、子どもや家族に原因を転嫁せず、支援側の問題として振り返ってみる姿勢も忘れたくないものです。



来年はキンカンのシロップ漬けを作りたいなと楽しみにしています。

「市町に途切れない発達障害児・者支援システムを」

あすなろ学園　指導室　　中村みゆき

あすなろ学園や自閉症・発達障害支援センターには発達障害児・者※や保護者、関係機関職員が診察、療育、相談に訪れる。保護者はじめ関係者は受診のきっかけとなった主訴を伝え、手立てを求める。それらはあすなろ学園開設当初から変わらない質問や、近年になって多くなった通常学級に在籍する子どもたちの不適応問題まで多種多様である。（※自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害であって、その症状が通常低年齢発現するものを指す：発達障害者支援法）

例えば

★　「パニックや登校しぶりを起こす原因がわかりません」「教師の指示をきかないんです」とあすなろ学園から遠く離れた市町の教師。

★　「保育所で気になる子の姿を親に伝えても“小さい頃のお父さんと同じ”と言われ、親の同意のないまま就学指導委員会には出せない」と保育士。

★　「クラスの子を叩いてしまい、被害を受けた子の家族から苦情がきている。学校は介助員が付けてもらえないので、保護者に付き添ってもらっている。このままでいいのだろうか？問題